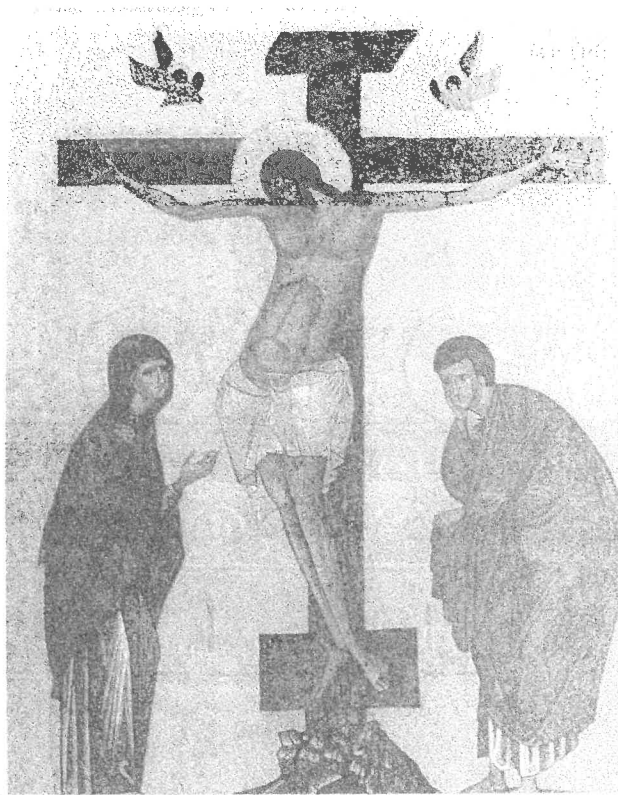


# 2000. 4 霊性センターニュース 143号



キリストの共同体（2）  
霊性センターカルメル  
断想（146）

ヘンリーナーウエン「旅路の糧」（21）

みことばのひびき

詩

大聖年にあたって（3）

フォコラーレニュースより

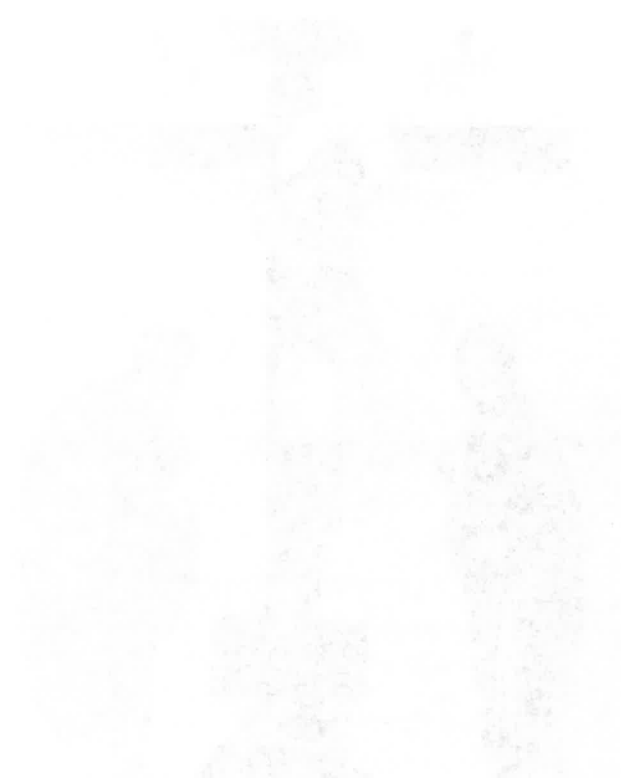
諸所の企画についてのご紹介

短歌

お願い

〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
宇治聖テレジア修道院（黙想）  
TEL 0774-32-7016  
FAX 0774-32-7457

10009  
又...  
...



...

...

...

## 『キリストの共同体』（2）

チブリアノ・ボンタッキョ

洗礼を受けた私達は、「キリストに結ばれて一つの体を形造っており、各自は互いに部分なのである」（コリント書12・15）。

この「キリストの共同体」の中にキリストご自身の生命が内在しているので、各部分はその生命によって生かされて聖なるものとなっている筈です。

ところが、「自分の懐に罪人を抱いている教会は、聖であると同時に、常に潔められるべきものであり、悔い改めて刷新の努力を絶えず続けるものである」（教会憲章n.8）と公会議は思い出させてくれます。

折角、洗礼を受けてキリストの体の一部分となった者の中に、キリストにつながっていないながら、「実を結ばない枝」（ヨハネ15・2）のようになったりする事もあり、又、最も悲しい事には、この体の中に「病む部分」もあったりして、体全体の苦しみのもとになる事もあります（1コリント12・26参照）。こういう事もある為に、教会は、キリストの証しを十分にたてる事が出来なくなったり、最悪の場合には、つまづきを与える事も起こります。弱い人間によって組み合わされているこのキリストの「体」は常にこういう悲しい状況に陥る可能性にあります。これを認識して公会議は上記の言葉を記しています。

キリスト者のどの共同体も「常に潔められるべきものであり、悔い改めと刷新の努力を絶えず続ける」べきものであるという認識を持たなければならないと思います。更に、キリスト者の共同体の構成員一人一人がキリストに似る様に努力すると共に、神の国の建設に貢献する様に召されています。洗礼によってキリストに結ばれた者は皆、同じ召命と使命を持っているという事です。聖職者や修道者だけではなく、信徒もそれぞれ置かれた場で、また、それぞれ与えられた恵みによって、自分の成聖に励み、また、福音宣教に貢献するように呼ばれています。成聖や福音宣教が聖職者や修道者の「専門職」と見なされるきらいが長く続いてきたので、公会議以来、その両方とも「神の民」の共通の召命と使命であるという事は何度も強調されるようになりました（「教会憲章」第4章と第5章、「信徒使徒職に関する教令」、「信徒の召命と使命」参照）。

「神の民」の中に於いて、皆、それぞれの恵みを「受ける」立場にあると同時にその恵みを「分かち合う」義務もあり、「生かされる」と同時に「生かす」義務もあります。

皆は、それぞれ「異なった賜物」（ロマ書12・6~12参照）に従って出来る事がある筈です。高齢者も、病人も、家庭を持っている者も、学問を持たない者も、貧しい者

も、皆、それぞれ出来る事がある筈です。

祈りや苦しみをお捧げする事しか出来ない者は、それによって誰よりも神の国の建設に貢献しているのではないのでしょうか。愛の証しは誰にでも出来るものです。「教会に於いても、又、世間に於いても、信徒は、多種多様の使徒職を果たす」事が出来るのです。

キリストの共同体のメンバーは、自分の成聖に呼ばれている事と福音宣教へ派遣された事を常に意識している筈の者です。

2000. 2. 20.

(在俗者集会講話)



## 2000年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

日 程

ご指導

- ・ 6月15日(木)夕食 ~ 6月18日(日)昼食 チブリアノ神父様
- ・ 8月24日(木)夕食 ~ 8月27日(日)昼食 アロイジオ神父様
- ・ 9月14日(木)夕食 ~ 9月17日(日)昼食 星野 正道神父様
- ・ 10月 2日(月)夕食 ~ 10月 5日(木)昼食 チブリアノ神父様
- ・ 11月16日(木)夕食 ~ 11月19日(日)昼食 福田 正範神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL & FAX 045-562-2296 (永瀬)

## 霊性センターカルメル

### 1. 聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院（黙想）(2000年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（2000年黙想会年間スケジュールのページを  
ごらんください)。

(3)名古屋（比野教会）

日時：5/27（土）～5/28（日）

連絡：小林 厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

(4)大分聖テレジア修道院（黙想）×（10/31・深読は訂正となりました）

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL. 0975-41-4012

(5)通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を  
組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：戸張由美子 〒163-0201東京都新宿区住友ビル 私書箱22

「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、3冊以上 注文されれば、20  
%引きになります。

オリエンス宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEJ. 03-3322-7601

FAX. 03-3325-5322

### 2. 聖書と念祷の集い

指導 星野神父

日時：4/1・4/15 5/6・~~5/20~~（各、土）3：30～

・急に変更になることもあります。その時は各自念祷をして御帰りください。

# 2000年 カルメル修道会東京・上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

## § 黙想会年間スケジュール §

### 1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ 星野正道師、福田正範師 (以上カルメル会)

Sr. 中川享子 (ケベックカリタス会)、他

(1) 6月 1日 (木) 4時から10日 (土) 朝食

(2) 10月20日 (金) 4時から29日 (日) 朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加も可能。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

### 2. 奉獻生活者のための黙想会

(1) 7月24日 (月) 4時から8月2日 (水) 朝食 福田正範師

(2) 8月11日 (金) 4時から20日 (日) 朝食 山田裕於師

(3) 12月26日 (火) 4時から翌年1月4日 (木) 朝食 福田正範師

### 3. 聖書深読黙想会：次の各土曜の夕食から日曜の16時30分まで

(1) 4月15日から16日 奥村一郎師

(2) 7月 1日から 2日 ”

(3) 9月30日から10月1日 ”

(4) ~~11月25日から26日~~ ”

9月 2日から 3日

(5) 12月16日から17日 星野正道師

2001年

(6) 1月27日から28日 奥村一郎師

(7) 3月31日から 4月1日 星野正道師

### 4. ウェンズデイ・リトリート スタッフ：星野正道師

「キリスト教再確認」 (音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.)

(1) 5月17日 (水) 10時から16時

(2) 6月14日 (水) ”

(3) 7月 5日 (水) ”

(4) 10月11日 (水) ”

(5) 11月 1日 (水) ”

5. ウィークエンド・リトリート 新井延和師 (カルメル会)

(最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。)

- (1) 4月28日(金) 20時から30日(日) 15時 「復活」
- (2) 10月13日(金) " 15日(日) " 「アビラの聖テレジア」

6. 特別企画黙想会：いづれも通い可

- (1) 5月 9日(火) 夕食から11日(木) 昼食 アロイジオ師
- (2) 12月 1日(金) 夕食から 3日(日) 昼食 チプリアノ師
- (3) 2001年1月16日(火) 夕食から18日(木) 昼食 奥村一郎師

7. 大祭日のミサにあずかるために：チェックイン 午後3時から

(講話なし) チェックアウト午前10時まで

- (1) 復活祭 4月22日(土) 夕食なし～23日(日) 朝食
- (2) クリスマス 12月24日(日) 夕食なし～25日(月) 朝食

以上、1. から7. までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。  
皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 お急ぎの場合 03-3704-2171

FAX. 03-3704-1764

8. 青年黙想会 (35歳までの男女) スタッフ：カルメル会士

- (1) 5月13日(土) 16時から14日(日) 16時  
希望者には5月12日(金) 20時から始まるプログラムもあります。  
その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

- (2) 11月 3日(祭・金) 12時、昼食から 5日(日) 16時

青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAX で下記まで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25カルメル会

青年黙想会担当神学生 FAX. 03-3704-1764

# 2000年 大聖年 黙 想 会 案 内



## 聖書深読黙想会

1月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後	奥村一郎神父担当了
2月 5日(土)6:00PM ~ 6日(日)午後	中川博道神父担当了
4月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後	中川博道神父担当
5月27日(土)6:00PM ~ 28日(日)午後	新井延和神父担当
7月 8日(土)6:00PM ~ 9日(日)午後	奥村一郎神父担当
12月2日(土)6:00PM ~ 3日(日)午後	新井延和神父担当

## 男子青年のための黙想(高校生以上~35歳まで)

6月 3日(土)5:00PM ~ 4日(日)4:00PM	カルメル会士担当
11月25日(土)5:00PM ~ 26日(日)4:00PM	

## 女子青年のための黙想(高校生以上 ~ 35歳まで) 中川博道神父・カルメル宣教修道女会

2月20日(日)一日黙想 10:00AM~4:00PM了
5月20日(土)5:00PM ~ 21日(日)4:00PM
11月18日(土)5:00PM ~ 19日(日)4:00PM

## 一般のための黙想

・週末黙想	1月29日(土)5:00PM ~ 30日(日)4:00PM	中川博道神父了
	5月13日(土)5:00PM ~ 14日(日)4:00PM	奥村一郎神父 (但し男性のみ)
	6月17日(土)5:00PM ~ 18日(日)4:00PM	北村善朗神父

・日曜一日黙想	10:00AM~4:00PM	中川博道神父
	4月9日 (テーマ) 『復活』	
	11月5日 (テーマ) 『日常生活の中の三位一体』	

・幼いイエスの聖テレジア黙想		伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』	テレーズと共に「愛に生きる」	
	9月30日(土)4:00PM ~ 10月1日(日)3:00PM	

・2泊3日の黙想		伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』	テレーズと共に(慈しみの愛に身をささげた記念日に)	
	6月9日(金)PM4:00~11日(日)PM4:00	

・グレゴリオ聖歌黙想会		花井哲郎氏・中川博道神父
	12月1日(金)4:00PM~12月3日(日)4:00PM	(合唱経験者対象)

・木曜 黙想会	10:00AM ~ 4:00PM	
	1月20日	一年の霊的歩みのプログラム 中川博道神父了
	2月17日	四旬節 中川博道神父了
	3月16日	聖ヨゼフの月 新井延和神父
	4月20日	復活 中川博道神父
	5月18日	聖母マリア 未定
	6月15日	イエスの聖心 未定
	7月13日	カルメル山の聖母マリア 新井延和神父
	10月26日	祈り:アビラの聖テレサをとらして 中川博道神父
	11月16日	待降節・死 新井延和神父
	12月12日(火曜日)	クリスマス 北村善朗神父

## 奉獻生活者の黙想

7月24日(月)5:00PM ~ 8月2日(水)朝食	中川博道神父
8月 5日(土)5:00PM ~ 8月14日(月)朝食	金子尚志神父(フランススコ会修練長)
12月27日(水)5:00PM ~ 1月5日(金)朝食	チブリアーノ神父



## 宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12  
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

最寄の駅:JR奈良線 木幡駅 or 六地藏駅 / 京阪宇治線 木幡駅 or 六地藏駅



2000 カルメル会 黙想会

【ウイークエンド・リトリート】

— 復 活 —

「キリストが復活しなかったとしたら、あなたがたの信仰はむなしい」(1コリント15・17)  
復活は、信仰の愛です。終末の希望という観点から復活について黙想したいと思います。

- \* 日 時 4月28日(金) 20時 ~ 30日(日) 15時
- \* 指 導 カルメル会 新井延和師
- \* 費 用 ￥11,000
- \* 最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。



カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL 03-5706-7355 (お急ぎの方は、03-3704-2171)

FAX 03-3704-1764

2000 カルメル会 黙想会  
特別企画 黙想会

“わたしたちは神の子である”

— 使徒ヨハネの第一の手紙についての黙想 —

指導 カルメル会 アロイジオ師

\* 日時 5月9日(火) 夕食 ~ 11日(木) 昼食  
\* 費用 ¥12,000 (通い可) ¥10,000



カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL 03-5706-7355 (お急ぎの方は、03-3704-2171)

FAX 03-3704-1764

# カルメル会四旬節講話シリーズ

主催：男子カルメル修道会

大聖年紀元2000年を迎えて

## 『生ける神三位一体』

場所：カトリック上野毛教会聖堂 東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分  
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院

日時：下記の各日曜日午後2時講話開始、続いて主日ミサ

- 3月12日 森一弘（東京教区補佐司教）  
「教会の源泉と展望－教会の歴史における大聖年の意義」
- 3月19日 カルメロ・ストッキ（カルメル会司祭）  
「愛に生きる神に生かされる存在」
- 3月26日 ペトロ・アロイジオ（カルメル会司祭）  
「三位一体への祈り」
- 4月2日 中川博道（カルメル会司祭）  
「三位一体と日常生活」
- 4月9日 小林久美子（フォコラーレ女子本部）  
「私たちと共におられる神－対話・相互愛・一致」

# T. T. クラブ

## ～10代・20代の集い～

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラブ』を行っています。このクラブの特徴は、福音や、現代の話題を使って、祈り、お互いの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するということを中心に着きます。その中で、お互いの神様から頂いた“宝”を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っております。

ぜひ、参加してみてください。わたしどもスタッフは心からお待ちしております。

- 第36回 3月25日 (土) 「歌謡曲で祈る パートI」
- 第37回 4月1日 (土) 「新聞で祈る」
- 第38回 4月15日 (土) 「主の祈り」
- 第39回 5月6日 (土) 「政治」
- 第40回 5月27日 (土) 「安息日—忙しさからの解放—」

- 第41回 6月10日 (土) 「こんぴゅーたー」
- 第42回 6月24日 (土) 「洗者ヨハネから学ぶ」
- 第43回 7月1日 (土) 「バンクエット」
- 第44回 9月9日 (土) 「歌謡曲で祈る パートII」

\* 時間 いずれも P.M.7:00 から P.M.9:00 まで  
 \* 対象 10代・20代の青年たち  
 \* スタッフ カルメル会士  
 \* 場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 1F  
 \* プログラム

7:00~7:15 はじめの集い みんなで讃美歌を歌うetc.  
 7:15~7:30 テーマの解説  
 7:30~8:00 祈りの時間 (沈黙の祈り) 聖堂や会館で  
 8:00~ 祈ったことの分かち合い

9:00 解散  
 ○ カトリック教会のカテキズム  
 ○ ともに祈る時

カルメル修道会  
 T. T. クラブ 係

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
 TEL 03 (3704) 2171



# 断想（146）

2000. 4月

## 宇宙の子守唄（6）

どこかに書いてあることなら　それを読めばよい

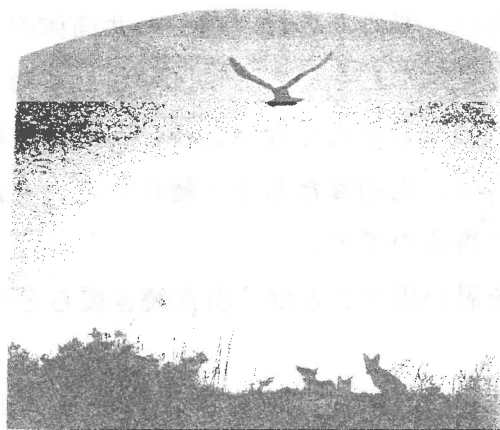
でも　あなたの声　あなたの感情で　語られることは

宇宙でたったひとつのこと　それを聞かせてください

先日、函館から関空大阪まで飛んだ日本エア・システム（JAS）の雑誌「ARCAS」のなかにあったことばが目にとまった。

イエスのそばで、その生まることばを聞き入った多くの人々、そして、その聞いたこと、見たことを書き記した福音記者、次には、その福音を読んできた二千年にわたる無数の人々、そして、今、わたしたちは、それぞれの言葉に訳された聖書を手にしている。イエスが話されたにちがいないアラム語とは、およそ縁遠い日本の言葉で、次々にでる参考書を頼りに、たどたどしく、キリスト、イエスの足跡を探るわたしたち。「心の貧しい人は幸い」という一句にも、数知れぬ解説と新しいいくつもの訳語が作られる。これからも、さらに多くのコンピューターが限りなく言葉を増殖してくれることだろう。そんななかで、宇宙でたったひとつのイエスの声を聞きとるもの、それが、幼子の心であり、山上の垂訓にしめされる、「貧しく、清く」美しい心なのであろう。

聖書深読法の「素読」とか、「書禱」は、その一助となるもの。



## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(21)

### 涙を拭う微笑み

死とは、愛する人の姿が徐々に小さくなり、ついには命の地平線のかなたに消え失せてしまうことです。ヨットが港を出、水平線に向かって行くのを見ていると、ヨットはますます小さくなり、やがて何も見えなくなってしまう。しかし、私たちは、だれかが、はるかかなたの岸に立っていることを信じなくてはなりません。彼は、そのヨットがだんだん大きくなり、ついには新しい港に到着するのを見守っているのです。死は、実につらい、愛する人の喪失です。埋葬式から家に戻ったとき、私たちの心は、悲しみに引き裂かれます。けれども、はるか向こう岸に立ち、私たちの愛する人を新しい家へ迎え入れるために熱心に待ち続けている方がおられることを思いめぐらすならば、微笑みが、私たちの涙を拭い去ってくれるのです。

(0330)

### 死者との交わり

私たちは、歳を取れば取るほど、思い出す人々が、つまり私たちより先に死んでいった人々が、ますます多くなります。私たちが愛してくれた人々を思い出すこと、私たちが愛した人々を思い出すことは、きわめて重要です。彼らを思い出すということは、私たちの毎日の生活の中に、彼らの霊(魂)を吹き込むことです。彼らは、私たちの霊(魂)の共同体の一部となり、私たちが人生の旅路で決断しなくてはならないときに、やさしく助けてくれるのです。両親や伴侶、子供や友人は、彼らが亡くなった後に、真の霊的友(伴侶)となり得るのです。時には、彼らは、生前私たちと一緒にいたとき以上に、死後私たちにとって親密な存在となり得るのです。

死者を思い出すことは、引き続き彼らとの交わりを選択することなのです。

(0829)

九里 彰訳

## 四旬節第4主日

## 地の安息

(歴代誌下36:21)

今日の第一朗読は歴代誌の最後の部分です。神殿の破壊が書かれています。神殿は神がその名をとこしえにおくと言われた所(列王記上9:3)です。人々は神が永遠にそこにおられると考え、安心していました。エレミヤ記の7:4などにそれが窺われます。ヒゼキヤ王の時代、アッシリヤの大軍にエルサレムが包囲されたとき奇跡的に難を免れたことも、エルサレムは神が守っているから絶対陥落しないという確信を強めたことでしょう(列王記下18、19章)。

ところがバビロニア軍によって、神殿には火が放たれ、エルサレムの城壁は崩され、宮殿はすべて灰燼に帰し、貴重な品々はことごとく破壊され、生き残った者の中で重立った人たちはバビロンに連れ去られました。こういう状態になった時、地は安息を取り戻したのだと記されています。

地は7年に1年安息の年を与えられるべき(レビ記25:4)なので、与えられていなかった分を取り戻したと言うのが文字通りの意味でしょう。しかし、直後にペルシャ王キュロスによる解放が述べられているのを考えるとそこに神のあわれみが含まれていると言えます。イエルサレムの滅亡が希望の始まりでもあったからです。

エゼキエルが言っているように、安息日は主を知るため、イスラエルの民が自分たちを聖別する主を知るためにありました(エゼキエル20:12)。ここから考えると、地の安息は地を聖別することだと言ってよいでしょう。マナセなどが行なった異教礼拝で汚された地を聖別し、唯一の神を礼拝する地に相応しいものに戻すことです。一方、捕囚の地の民も唯一の神、歴史の主なる神への信仰を純化していきました。モーセ五書の最終的編纂がなされたのはその結果です。

絶望の中に、灰燼の中に、すべてが終わったと見えた中に、希望が芽生えてきました。目に見えるよりどころを完全に失ったときに、本当に頼れるものは生ける神、最高の義であると同時に最高のあわれみである神しかないとわかったのです。地の安息が与えられて始めてこれがわかるようになります。

(新井)

四旬節第5主日

「一粒の麦のように、実を結びたいなら自分の意志に死なねばならない」

(ヨハネ12:20~23)

キャサリンはひどい伝染病にかかり、薬も祈りも効かないまま半年過ぎ、すっかり気落ちしてしまいました。ある日、奇妙な病気にかかった女性宣教師についてのパンフレットを誰かが持ってきました。その人は8年間病気で苦しみ、神がこのような悲劇をお許しになった理由がわからないでいました。毎日宣教の仕事に戻れるように回復を祈っていましたが、聞き入れられません。ついにやけになって、「もうあきらめます。ずっと病気のままでいるのならそうしましょう。」と神に向かって叫びました。2週間もしないうちに彼女は回復しました。

キャサリンはパンフレットを読み終わり、当惑していました。わけがわかりません。しかし忘れられないと思いました。朝になって、彼女も同じように「健康を祈るのに飽きました。病気か健康かあなたがお決め下さい。」と神に叫びました。この時、健康になり始めたと言っています。

この話は今日の福音でイエスが何を言いたいのか示しています。一粒の麦は死ななければ、実を結ぶことが出来ません。すなわち私たちは自分の意志に死ななければ、神のために実を結ぶことが出来ません。宣教師が自分の意志に死に、「神様かまいません。あきらめます。」と言わなかったなら、おそらく病気のままだったでしょう。そうしたから良くなり、実を結んだのです。キャサリンが自分自身に死に、「神様、あなたの望むことをお決め下さい」と言わなかったら、病気のままだったことでしょう。そうしたから良くなり、実を結びました。

イエスは死によってのみ生命が来ると教えています。我々の生命を放り出し、神に我々の人生について望むことをしていただくのが大切です。自分の生命を愛する人は二つの目的、利己心と安全の欲求に動かされます。

イエスは穀粒を生み出すために死ぬ種のような方ではありません。イエスが種であり、この種はペルソナです。イエスは、聖性という実りを結ぶために謙遜になり、自分に死ななければならないという道徳的教訓以上のことをここで語っているのです。

(Beatrice)



枝の主日

「十字架につけろ」

(マルコ15:13)

枝の主日のミサは普通、行列から始まります。イエスのイエルサレム入場を記念するものです。この時、群集は歓呼の声を上げ、「ホサナ。主の名によりて来られる方にホサナ。」と叫び、枝を主の進む道に敷きました。自分の服を敷いた者もいました。

ところが主の裁判の席上では群集は「十字架につけろ」と叫びます。この言葉は会衆が言わなければならないので心に痛みを覚える人も多いと思います。行列の際はしゅろの枝を持って主を心からお迎えしたのに、何でこんな嫌なセリフを言わなければならないのだろうと感じるでしょう。この痛みには深い理由があります。

群集の態度が豹変したように見えるのは簡単に説明できます。異なった群集だったからです。ピラトのまわりに集まった群集は、バラバの釈放を要求するという明確な目的で集まったもの(15:11参照)で、イエスの支持者の大部分は最高法院が夜間に裁判をし、ただちにピラトに死刑を要求するとは予想できなかったのでしょうか。群集の中でイエスを支持する人はほんのわずかしかなかったことでしょう。

この二つの群集は、両方とも全人類のある部分を代表していると思います。イエルサレム入場ではイエスを進んで迎える人たち、裁判の席上では自分の利益のためなら無実の人をも平気で死に追いやるエゴイスト。この二つは私たち一人一人の中にも響きあうものを持っているのではないのでしょうか。

キリストは罪人のために「父よ彼らをおゆるし下さい。自分が何をしているのか知らないのです」(ルカ23:34)と言いながら死なれました。キリストは私たちがまだ罪人であった時、私たちのために死んでくださいました(ローマ5:8)。「十字架につけろ」と朗読で言うとき私たちの心が痛むのは、この主の大いなる愛に十分に答えていないと良心の奥深くで気づくからなのではないのでしょうか。この心の痛みを深めていくなら、パウロのように「キリストは私を愛し、私のために身を捧げられた」(ガラテヤ2:20)と言えるようになるでしょう。

(新井)

復活の主日

「復活は我々の人生に働いておられる甦りの主を体験することである」

(使徒行録10:34a, 37~43, コロサイ3:1~4, ヨハネ20:1~9)

私たちの現実の日常生活において、復活は人生の大きな悲劇を輝かしい新しい門出に変えるイエスの力を体験することです。復活の使信は何も一痛みも罪も拒絶も死も—もう私たちを破壊することはないと言うことです。私たちは、働き、苦しみ、心配し、また罪を犯し、日常のいつもの出来事と偏見に戻ることでしょう。しかしイエスは私たちをあきらめません。イエスはいつも私たちと共にあり、御自身の生と死と復活を私たちに対して、私たちのために現存させていただきます。

一人の女子学生がニューヨークからムンバイに向かう飛行機に乗って来ました。飛行機の窓から緑の大地を見ながら、心は重く、涙が目に浮かんでいました。大学の1年目が終わるところですが、散々なものでした。自分にとって人生はもう何の本当の意味もないと思い込んでいました。ムンバイ空港に着陸したとき、こんな状態で復活祭休暇が何になるのだろうかと思っていました。

海岸にやって来た時は、もう夜中の12時を大分過ぎていました。月明りの中で波が岸に打ち寄せるのを座ってじっと眺めていました。〔注：インドでは満月の夜、寝ないで涼しい夜を楽しむ人がたくさんいます〕ゆっくりと散々だった一年間が日毎に、週毎に、月毎に目の前に甦ってきました。同時に、海のそばで座っていて、精神と心と体が海から力を引き出していきました。かつての目標と情熱が以前よりも強く甦って来ました。

復活祭休暇の後、彼女は1年間の粉々になった記憶を集め、組み立て直してニューヨークに帰りました。休暇の短い期間の間に少女は死に、甦ったのです。生まれて初めて彼女は復活の実際の意味を知りました。復活とは心破れた女子学生が涙を拭き去り、再起することだったのです。

私たちが失敗し、再起するごとに、私たちは復活を共有します。希望が粉々に砕けてから再び希望を抱くごとに、私たちは復活を共有します。私たちがすべきことは、イエスが2000年前の最初の復活の主日に私たちのために勝ち得てくださった恵みに対して心を開くことだけです。

(Beatrice)

## 復活節第2主日

## 「わが主よ、わが神よ」

(ヨハネ20:28)

主が弟子たちに現れて、手と脇腹の傷跡を見せ、復活なさったことをお示しになったとき、なぜかトマスだけがいませんでした。他の弟子たちが「私たちは主を見た」と言うと、トマスは「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れてみなければ、私は決して信じない。」と言い張りました。

トマスは死ですべてが終わると考えていたのでしょうか。これは旧約聖書に何度か出てくる考えです。詩編の88篇を見ると死者が起き上がって神を讃えることはないとありますし、イザヤ書の38章には生きているものだけが神に感謝すると書かれています。神の民の復活はエゼキエル(37章)などが力強く述べていますが、個人の復活があるかどうかはユダヤ人の間で意見が分かれていました。主は復活を3度も弟子たちに予告なさいましたが、弟子の誰も実際に復活の主に出会うまでその真意がわからなかったようです。また「私のために命を失うものはそれを得る」(マタイ17:33)とか、「私を信じる者は死んでも生きる」(ヨハネ11:25)とかいう言葉も何か象徴的に取っていたのでしょうか。

またトマスは主が「私の行く場所への道をあなたたちは知っている」(ヨハネ15:4)と仰ったとき、「主よどこへおいでになるのか私たちは知りません」と言いました。どうも自分が捉えられるものしか信じられない人だったようです。情熱的でもあり、主がラザロを甦らせに行くとき、弟子たちがユダヤ人に石を投げられるのを恐れていると、トマスは「私たちも行って、先生と一緒に死のう」と皆を励ますのでした(ヨハネ11:16)。

このように頑固でかたくななトマスに主が現れ、「わが主よ、わが神よ」とイエスを神と呼ぶ最初の人となりました。こういう恵みを受けることが出来たのは、かたくなであっても、主を信じるグループから離れなかったからだと思います。「互いに愛しあえ」と言う最後の晩餐での主の言葉が耳に残っていたのでしょうか。主を愛する人々と共に生きる時、主が一人一人の友としておられ、恵みを豊かに与えてくださり、私たち一人一人を聖旨に相応しいものへと変えてくださいます。

(新井)

## ～ 大聖年にあたって (3) ～

カルメル会 嶋崎 浩樹神父

### 4. 三位一体とは？

では、最後に三位一体とはどのようなものかについて簡単にみてみたいと思います。これまでに、御子、聖霊、御父についてみてきました。各ペルソナ（位格）の特徴がよく表れていたと思います。三位一体とは、その字の如く、三つの位格が一つの体を為しているものです。見かけは、バラバラのように見えますが、でも神としての本性としては一つなので、決してバラバラではありません。ここで、三位一体とは何かということを論じてあまり意味がないので、三位一体がわたしたちにどのように関わってくるのかと言うことを見てみたいと思います。

御父は、御子を産み、聖霊は、御父と御子から流れ出てくるものです。でもこれらは、人間の持っている時間の感覚を超えたもので、どれが先でどれが後かといったことを論じて何の意味もありません。ここで大切なのは、それぞれの関係がどのようになっているのかと言うことです。

御父は、ひとり子である御子を愛しています。また、御子は御父を愛しています。しかし、この関係だとその愛は限定されたものであり、非常に偏った愛となってしまいます。そこで、聖霊の存在が必要となるのです。御父と御子の愛が聖霊に注がれます。この第三者への愛によって、神様の愛は完全なものとなります。また、愛に無限の拡がりが生まれます。このことが重要なことではないでしょうか？つまり、わたしたちの愛の原型がこの三位一体の愛の関係にあるのです。わたしたちは、好きな人だけにつきあえば良いものでも、好きな人だけを愛せば良いというものでもありません。どんな人でも、たとえ気の合わない人であっても互いに愛し合わなければなりません。これが、神様からわたしたちに与えられた大切な唯一の掟であり、使命なのです。そして、それができるようになったとき、わたしたちは、神様がわたしたちを愛して下さったように人を愛することができるでしょうし、三位一体の愛の交わりと同じ愛し方ができるようになっていくことでしょう。

確かに、気の合わない人、まだ見たこともない人のことを愛することは難しいことです。でもわたしたちにとって大切なことは、ダメだとあきらめるのではなく、その大きな使命に向かって歩んでいこうと努力することです。歩み続ける限り、人は成長し、キリスト様の来臨によって始まった「神の国」の完成へと向かっていくのです。

三位一体の愛は、誰かを排除するものでもなく、誰をも受け入れ、包み込み、共に支え合い、成長しながら神様のご意志を果たしていこうとするものです。ですから、この世の中に三位一体の愛が充満したならば、本当の平和が訪れ、世界各地で起きている紛争はなくなるだろうし、また、本当の平等が訪れ、互いに相手のことを気遣い合いながら生きていくことができることでしょう。そうなれば、国や自治体のレベルの平和のために努力したり、福祉の充実のために努力しなくても、近くにいる人たちが率先して国が行ってきたことを代わりに行うようになるでしょう。そのような世界こそが、「神の国」なのです。

## 5. これからの歩み

これまで、御父、御子、聖霊、三位一体について話してきました。ここで、まとめとして、「じゃあ、わたしたちは、どのように生きていったら良いのか？」ということをも最後に述べたいと思います。

教皇様は、聖年にあたって、回心と呼びかけています。回心とは、その字の如く心を180°回すということを意味します。つまり、この世における価値観を捨て、神様の価値観に合わせて生きるということです。これは、洗礼の時に誰しも体験し、今も続けているはずものです。しかし、わたしたち人間というのは弱い者で、楽な方へ楽な方へと傾いてしまいます。ですから、気がついたときには、神様から遠く離れたところに立っていることも珍しくはありません。でも気づいたときでも遅くはありません。その時にこそ神様のもとに立ち帰るようにしましょう。その一つのきっかけとなるのが、この大聖年です。わたしたちの周りに次のような「飢えていたり、のどが渇いていたり、寝るところに困っている人、服を買うことのできない人、病気の人、今までに犯罪を犯したことがある」(マタイ 25.35,36 参照)人はいないでしょうか？言い換えるならば、何かに困っている人や悩んでいる人、また精神的、肉体的な病気と闘っている人、人から差別や偏見を受けている人などいないでしょうか？大きなこと、重大なことを考えるならば、見当たらないかも知れません。しかし、小さなことで考えるならば、きっといるでしょう。まずは、自分と気の合わない人を遠ざけるようなことはなかったでしょうか？確かに、気の合わない人というのはとてもつきあいくいものです。でも、その人の立場や考えなどを考え、その人のことを受け入れていこうとする努力は大切なことです。すなわち、その人のことを気にかけているならば、たとえその人とつきあうのが困難だとしても、その人を愛することにつながっていくことでしょう。

外国人に対してもそうです。その人の外見や日本人でないというだけでその人をさも、自分の奴隷のように扱ったり、差別を加えることは許されるものではありません。どんな人でも、わたしたちと同じ人間です。神様が、ご自分と似せて造られたとても尊いものなのです。ですから、人間として上下の区別があるわけではなく、みんな神様の御前では平等です。そして、神様に似せて造られたわけですから、その意味でどの人も神様と同じであるといえるのです。神様と同じであるということは、他の人と接するとき、その人を神様と同じように大切に接しなければならないでしょう。

他にも病気の人や高齢化に伴って寝たきりの人もたくさんいます。そして、最近多いのが、精神的に病んでいる人たちです。中学高校といった若いうちから、苦しんでいる人はたくさんいます。その中には、病院に通っている人も多くいます。その人たちは、自分の話を聞いて欲しいという願望が強いようです。ですから、辛いかも知れませんが、その人の話をじっくりと聞いてあげることが必要です。聞いてあげることによって、その人たちは精神的に落ち着いてきます。また、肉体的な病気と苦しんでいる人にも、その人が今必要としていることを手助けすることが大切です。そして、早く精神的にも落ち着いて、病気を克服し社会復帰できるように導いていくことが必要でしょう。

今いろいろなケースをあげてお話ししてきましたが、これらをまとめるとただ一つです。それは、「愛」です。「愛」とは、自分中心に物事を進めるのではなく、他人の

ことを気遣い、その人のことを考え、その人が今必要としていることを見極めて、奉仕していくことです。これが、わたしたちキリスト者の根源となるものです。

大聖年は、回心の年、和解の年です。大聖年をきっかけにして、もう一度自分の生活を見直し、「愛」とは何かを聖霊の照らしのうちに祈りつつ、考えてみることにしましょう。そうすれば、自ずとわたしたちが何をしなければならないかが分かってきます。今一度、キリスト者としての原点に立ち戻り、早く「神の国」が完成するように、新たな一歩を踏み出すことにしましょう。

<聖書の引用は、新共同訳聖書1997年版を使用しました。>



バスよ、風をきって走れ

(9) 一九九八年三月四日

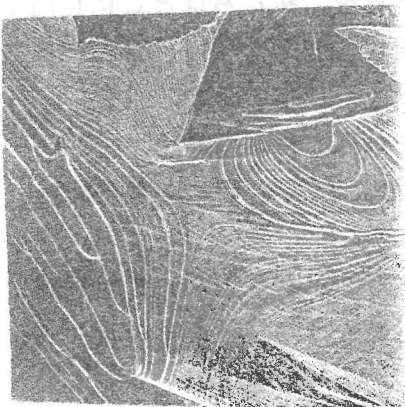


四旬節第一水曜日、昼下がりの小道は、心なしか静かで、心地よい風が吹いている。春の香りのする風だ。空いっぱい暖かな光が満ちあふれ、そうださっきは、まだ柏の木が、茶褐色の枯葉を着て立っていた。僕はきのう、上野毛教会の周りを徘徊した。やはりこんな、春の香りのする、乙女の風が吹いていた。……源氏ヶ丘をすぎ、相武隧道を抜け、バスよ、そら、風をきって走れ。

## 枝の主日

(10) 一九九八年四月五日

梅の花の盛りを見た。満開の桜も見た。うららかな春の日盛りを越えていく。きょう枝の主日を、僕は心で祝った。どんなふうに生きるのであれ、自信を持たなければ。夜「ドイッチュランド号の難破」を読んだ。不思議に心が落ち着くのだ。ホプキンス、僕の前方を歩んだ人よ。瞼の裏に木蓮や連翹の花が浮かぶ。不義理をしても、人を傷つけても、それが僕なのだ。腰を屈めながら来たこの道を、ゆこう果てまで。



フォコラーレニュースより

## イエスの声を聞こう

(マルコ 9・7)

これはわたしの愛する子。これに聞け。

福音史家マルコは（マタイやルカも同様ですが）、ある日イエスが、ペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた時のことを記しています。彼らはそこで特別な出来事を経験しました。彼らの目の前で、イエスの姿が変わり、その服は真っ白に輝き、モーセとエリヤが現れて、イエスと共に語り合っているのを見たのです。そして雲が現れ、三人の使徒を覆いましたが、雲の中から、天の御父の声が次のように響きました。

これはわたしの愛する子。これに聞け。

イエスは宣教活動の最初の頃、ヨルダン川で洗礼を受けられましたが、その時にも、これと同じ神秘的な声が響きわたりました。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」（\*1）と。

一方、高い山の出来事では、御父は、イエスの弟子たちに向かって、すなわち私たち皆に対して、語っておられます。イエスの言葉を聞くよう、御父は私たちを招いておられるのです。そこで、今月のみ言葉の鍵となるのは、「聞く」ことだと言えるでしょう。

ではイエスは、いつ語られたのでしょうか。彼のみ言葉を、私たちはどこに見出すことができるのでしょうか。福音書の中です。福音を開き、愛をもって、読んでみましょう。福音こそ、イエスのみ言葉です。

イエスはまた、他の方法を用いても、私たちに語りかけておられます。

では、彼の声を聞き分け、他の多くの声と混同せずに、よく聞き取るためには、どうすればいいのでしょうか。

イエスが私たちの魂に語りかけてくださる、特別な瞬間があります。祈りの時です。心の中におられる神様を私たちが愛そうとすればするほど、神様の声は一層よく聞こえるようになります。そして、心の奥深くから、私たちを導いてくださいま



す。

また、日々の生活の中で人々に出会う時も、イエスの声を聞くためのチャンスです。だれであっても、隣人一人ひとりに対し、心を開いて相手を受け入れ、愛をもってその人の言葉に耳を傾けてみましょう。イエスが教えてくださったように（\*2）、それぞれの人の後ろには、イエスご自身がおられるのです。

私たちがこのように隣人に耳を傾けるなら、周りの人との関係はどれほど変わるのでしょうか。あまりよく知らない相手でも、よく話を聞くことで、私たちがその人を大切にしているのを感じてもらえるでしょう。

そこで、神様の声を聞こうと思うなら、兄弟姉妹に耳を傾けること、これが秘けつです。

これはわたしの愛する子。これに聞け。

そして、私たちが互いに愛し合うなら、イエスが共にいてくださいます。力強く語られる彼の声は、他の声とはっきり区別されます。二人三人がイエスの名によって集まるところには、彼が共におられ（\*3）、それぞれの心におられる神様の声を、拡声器のようにもっと大きくして聞かせてくれる、と言えるでしょう。

私たちがイエスのお考えや教えに従って生きる時には、彼の声を聞くことがもっと易しくなります。

また、ルカ福音書の中で、「聞く」ことについてイエスが語っておられる箇所がほかにもあります。72人の弟子を派遣されるにあたり、「あなたがたに耳を傾ける者は、私に耳を傾ける」（\*4）と、イエスは言われました。今日カトリック教会では、次のように考えています。この弟子たちは、イエスのご自分のメッセージを特別に委ねられた人々、すなわち、神のみ言葉を告げ知らせる任務を持つ司祭の方々や司教様方を指す、と。

さらに、イエスを「証しする人々」もいます。み言葉に耳を傾け、それを全面的に生きようとする人たちです。彼らは、いつも新たな形で、世にみ言葉を示し、人々が心を開いてみ言葉を受け入れるよう助けます。

イエスの声はただ一つですが、彼はさまざまな形で私たちに語っておられます。私たちの心の奥深くで、兄弟姉妹の言葉を通じて、司祭・司教様方を通して、福音書の中で、またイエスを証しする人々がもたらすカリスマ、すなわち神様の特別な恵みの中で、イエスは語っておられます。

イエスが私たちに伝えようとされることに耳を傾け、それを生きることができるよう、今月のみ言葉は私たちを助けてくれるでしょう。

キアラ・ルービック

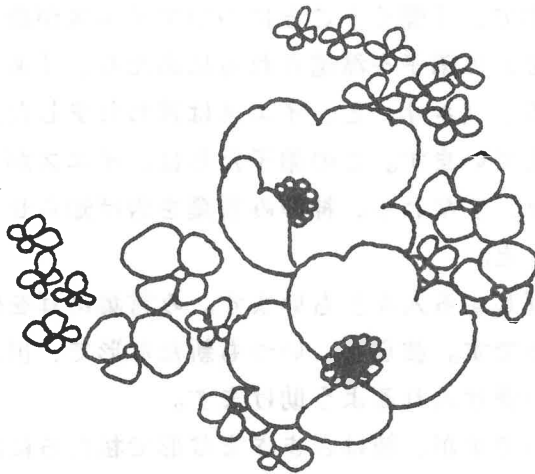
- 1 マタイ 3・13-17、マルコ 1・9-11、ルカ 3・21-22
- 2 マタイ 25・40 参照
- 3 マタイ 18・20 参照
- 4 ルカ 10・16

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055



## 諸所の企画についてのご紹介

### I ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

\*若い信徒のための研究会 (20～40代の信徒対象)

祈りについて学ぶ

日 時：2000年2月19日(土) (終了) 3月18日(土) (終了)

講 師：伊従 信子(ノートルダム・ド・ヴィ 会員)

プログラム：午後2時30分～午後5時半。講話、祈り、等

申し込み：電話(18:00-21:30)・Fax(03)3594-2254。(いつでも)又はハガキで

\*従来の祈りの集いは5/20(土) テーマ「日常生活の中で祈る」

### II スズラン・ハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい方は、下記へ：

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

### III 風の家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

\*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### IV 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

黙想会 指 導：フランコ神父 ・ 園田善昭神父

(1)8月7日(月) - 8月15日(火) (2)8月17日(木) - 8月25日(金)

開始 17:00時 終了 朝食後

研修会 座禅と聖体礼拝 3月31日(金) - 4月2日(日)

茶道とミサ 4月7日(金) - 4月9日(日)

諸宗教対話活動 仏教者との交流

4月29日(土)・6月25日(日)

21世紀に向けて第4回宗教者平和の祈りの集会

\*日時：10月8日 午後 \*場所 生命山カトリック別院

祈りの集い 年間テーマ「私を見た者は父を見たのである」

(10:00～15:00)

4/13.5/11.6/8.7/13.9/14.10/12.11/9.12/14(木)

\*このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。

お申し込みは生命山別院へ

### V 瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会) \*詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

VI リーゼンフーバー神父による研究会 (1999~2000年)

- ①キリスト教入門講座 日時：金曜日 18:45 ~ 20:30  
場所：聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
対象：キリスト教を学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方どなたでも。予備知識は必要ありません。

2000. 3/27 世界の聖化—多様な形で働きかける恵み  
3/31 聖母マリア—信じる者の原形  
4/7 信仰の道—人生の意味を問う  
4/14 聖書の人間像—人間の現状と使命  
4/21 聖書入門—イスラエルの歴史と聖書の成立 (本日は19:15)始め  
4/28 旧約聖書の神体験—聴くことと見ること

- ②神学読書会 日 時：毎月第2・第4 (第5)水曜日 18:30~20:30  
場 所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期的参加  
対 象：キリスト教の基本的知識を持っている20代~30代の方。

- ③聖書研究会\*日 時：毎月第1・第3水曜日 18:30 ~ 20:00  
場 所：S. J. ハウス第5会議室  
内 容：日曜日の聖書箇所を読んで一緒に考える。どなたでも。  
\*日 時：木曜日 12:40 ~ 13:25  
場 所：上智大学7号館 316号研究室  
内 容：新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

- ④坐禅会 日 時：月曜日 17:20~20:10 木曜日 18:00~20:30  
場 所：クルトゥールハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。  
どなたでも。遅刻、不定期参加も可。

- \*接心 2000.5/1 (月) 20:30 ~ 7 (日)16:00  
関東 6/17 (土) 8:00~18 (日)16:00  
8/12 (土) 20:30 ~ 19 (土) 16:00  
10/31 (火) 夜 ~ 11/5 (日) 16:00  
2000.2/17 (土) 8:30~ 18 (日) 16:00 上石神井 5.400  
関西 5/27 (土) 13:00 ~ 28 (日) 16:00 宝塚市①  
8/1 (火)17:30 ~ 7 (月) 13:00 宝塚市②

秋川神冥窟  
一泊2400円程度

連絡先：①シスター朝山 TEL. 0727-59-3742 ②岸本 正 TEL 078-583-3067

- ⑤ミサ：水曜日 17:10~18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂

- ⑥黙想：水曜日 18:00~18:30 場所：(同上)

(ミサ、黙想、共に (8月を除く))

- ⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場 所：S. J. ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。

2000年1月8日、2月19日、3月4日

- 8 アガペ会：説明会と集い・右記の 13時30~ .1/22. (20代~40代の信者)

以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX, 03-3238-5056

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会 「祈りの家」

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」

申し込み先…… 佐々木明子

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）

対象：一般信徒

2000, 2月26日（土）5:30P.M.～2月27日（日）4:00P.M. （終了）

6月24日（土） ” 6月25日 ”

10月28日（土） ” 10月29日 ”

2001, 2月24日（土） ” 2月25日 ”

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会）

対象：女子青年信徒

2000, 2月11日（金）10:00A.M.～5:00P.M. （終了）

4月29日（土） ”

7月20日（木） ”

10月 8日（日）5:00P.M.～9（月）4:00P.M. } （一泊になりました）

2001, 2月11日（日）5:00P.M.～12（月）4:00P.M.

\* 黙想会：2000, 5月30日（火）10:00A.M.～4:00P.M. \*対象：信徒のための一日黙想

指導：星野正道師（カルメル会）

大聖年・聖書に親しむ集い

講師：シスターマグダレナ

\*対象：信徒

テーマ：2000年に向けて 御父、御子、聖霊との交わり

－秘跡を通して－ 毎月最終木曜日 2:00P.M.～3:00P.M. \*7.8.12月除いて

キリスト教講座（カトリックの教えを学びたい方）毎木曜日 10:00A.M.～11:30A.M.

十字架の使徒職の集い

\*対象：信徒

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日（2:00P.M.～3:30P.M.）

第二グループ 毎月第1木曜日（2:00P.M.～3:00P.M.）

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30PM～2:00PM）

Ⅷ マリアの御心会（明泉会）

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

TLE.03-3351-0297

I. 黙想会 担当：シスター今村和子

① 聖書深読黙想会－主日の福音を中心に－

隔月・日曜日 10:00A.M.～5:00P.M.

② 黙想と祈りの集い テゼの歌をうたいながら

③ 霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師（イエズス会） 毎月第3土曜日 6:00～8:00P.M.

II. ① 聖書会 …詩編を読む… 毎月第1月曜日 10:00～12:00A.M.

② 聖通読講座 木曜日 6:30～8:30P.M.

IX 聖心会黙想の家：

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

- 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

（当日黙想の家の玄関に表示します。）

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-3337-3291

X. カトリック内観研究会

代 表：藤原直達（大阪教区司祭）

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-10-5 カトリック浅草教会内  
TEL&FAX 03-3862-8876

\*予約相談は、まずはファックス・手紙でご連絡ください。\*予約が決まれば、さらに詳しく場所、申し込み、諸注意、など送ります。

予定表	2000,	3/19	～3/24	沖繩	3/27～4/1	関西・精華町
		4/9	～4/15	茅ヶ崎	7/10～7/15	戸塚・聖母園
		5/1	～5/6	関西・精華	7/24～7/29	関西会場A
		5/15	～5/20	戸塚・聖母園	8/7～8/12	戸塚・聖母園
		6/5	～6/10	関西会場 A	8/22～8/26	関西会場A
		6/19	～6/24	茅ヶ崎		



# 黙想へのお誘い

メディテーション

## 「会社帰りの黙想」

—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

4月から、聖イグナチオ教会で黙想の場が開かれます。リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまなやりかたが紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書の言葉を種にし、自己を探り、静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひととき心を深めたい方どなたでも歓迎です。随時参加・遅刻可、参加無料です。初めて黙想なされる方も、お気軽に訪れてみませんか。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

場所：東京聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）

（東京都千代田区麹町6-5 TEL.03-3263-4584

JR・地下鉄 四ッ谷駅から徒歩すぐ）

### 指導神父プロフィール

クラウス・リーゼンフーバー (Klaus Riesenhuber) S.J.

1938年生まれ、1967年来日

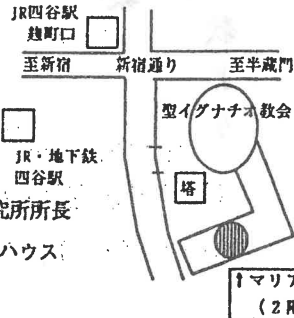
イエズス会司祭、哲学・神学博士

元放送大学客員教授(1991～1999年)

現在、上智大学文学部哲学科教授・上智大学中世思想研究所所長

連絡先：〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス

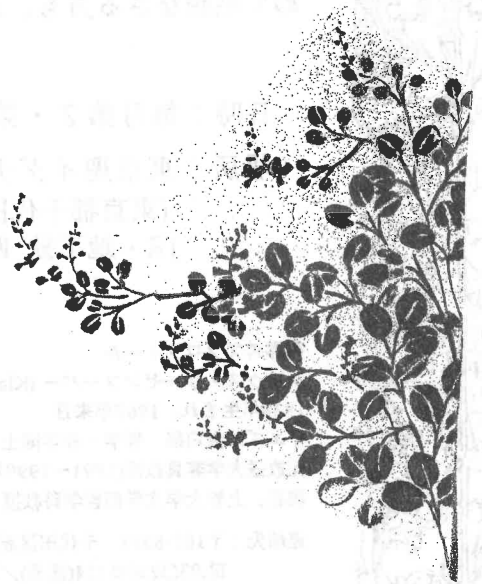
TEL.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)



次々と心配事の重なるは神の我を試さんとてか

マリア安達留子遺稿集

萩の歌より





# 今、神を考える

講師 カルメル会修道司祭 奥村 一郎

## <講座のねらい>

物質の氾濫は精神の荒廃をもたらす、といわれる。そうした状況の中では、いかがわしい宗教や教祖があらわれて社会的混乱をもたらすが現代日本は、まさにその状況にある。

真の神、真実の信仰とはおよそ縁遠い世俗的欲望にとりつかれた偽宗教があらゆる処にはびこっている。怖るべきことである。「宗教の時代」といわれる二十一世紀に入ったわたしたちは、ここで、真の神とは、真の信仰とは、という問題について共に考えてみたい。

(講師・記)

## <講師紹介> 奥村 一郎 (おくむら・いちろう)

1923年生まれ。東京大学法学部政治学科及び同大学文学部宗教学科卒業。ローマのカルメル会国際神学院卒業後、フランスのアンジェ・カトリック神学大学で、神学博士課程修了。現在カルメル会日本管区長。ローマ法王庁諸宗教対話評議会顧問。著書に「祈り」「断層」他がある。

日 時 2000年5月20日、6月3日 全2回

土曜日 13:00~15:00

受講料 会員 5,000円 一般 5,600円 (入会金不要)

受講料には消費税5%が加算されます

場 所 新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター (申し込みは4階受付)

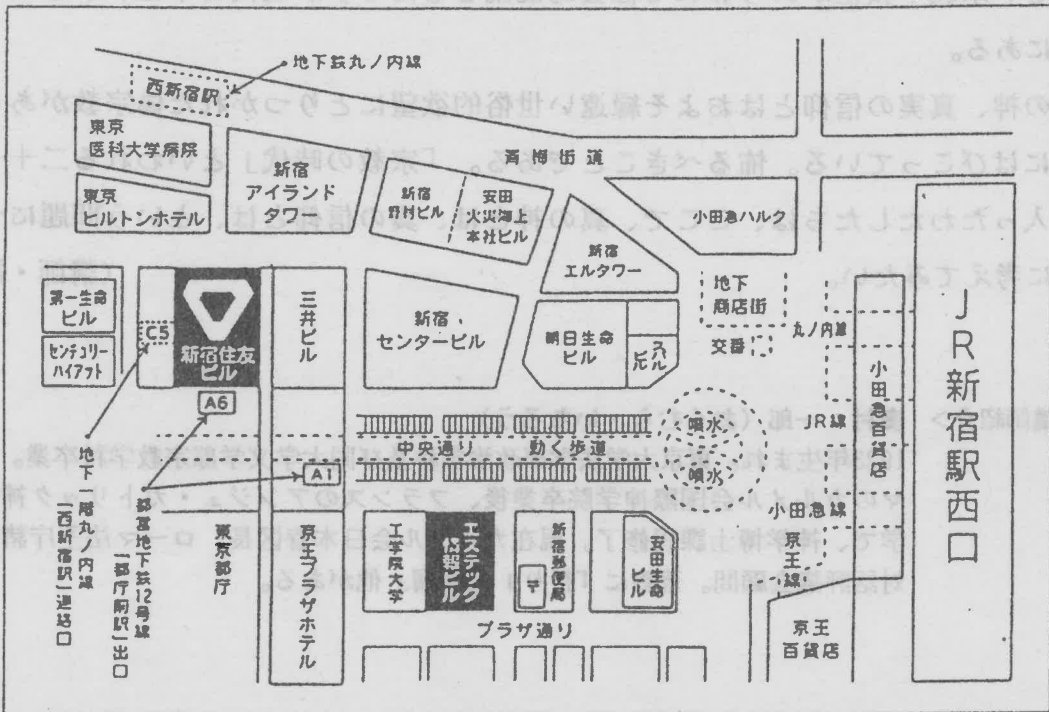


朝日新聞の文化活動 朝日カルチャーセンター

〒163-0204 新宿住友ビル内 私書箱22号  
東京都新宿区西新宿2-6-1 TEL. 03-3344-1945 (直)

# ご案内

朝日カルチャーセンターは、JR、小田急線、京王線、西武新宿線の新宿駅下車、新宿駅西口広場から徒歩8分、あるいは、地下鉄丸の内線の西新宿駅から徒歩5分、都営地下鉄12号線の都庁前駅から徒歩1分の新宿住友ビルにあります。新宿駅からお越しの場合は、地上よりも地下からの方がわかりやすいかと存じます。



## ※地下からの行き方

JR西口地下改札口を出て右側、小田急名店街に沿って、地下道をまっすぐ。地下道を抜けた所、右手ふたつめの銀白色の超高層ビルが、新宿住友ビルです。

朝日カルチャーセンター教養講座科は48階です。1階より48階～52階行き直通エレベーターをお使いください。(夕方の混雑時には40階～47階行きエレベーターをお使いになり、48階までは非常階段でお越しください。)

エレベーターを降り、右手廊下沿いに進むとラウンジがあり、その突き当たりが当センターの事務所です。

連絡先(朝日カルチャーセンター教養講座科) ☎03-3344-1945

## 『カルメル』のご案内

季刊誌「カルメル」（今日の靈性）は、年間5回、春・夏・特集（四旬節講話）・秋・冬に発行され、本年春号で296回目の発行となりました。2000年春号の内容と執筆者のご案内をさせていただきます。

聖体＝キリストの過越の神秘(44)＝高橋重幸師（トラピスト会）  
神に逆らう者への対処の仕方－詩篇36＝雨宮慧師（真生会館聖書センター）  
「テサロニケの信徒への手紙二」に学ぶ(12)＝石川康輔師（サレジオ会）  
祈り(2)－自己認識と祈り＝チプリアノ・ボンタッキョ師（カルメル会）  
何故、あなたを愛するか、おゝマリア！(8)＝パロ・アロジオ師（カルメル会）  
謙遜（一）＝Sr.伊従信子（ノートルダム・ドゥ・ヴィ会、上智大学助教授）  
日本の神学を求めて(39)＝奥村一郎師（カルメル会）  
エーミールと探偵達＝村上博子氏（日本文芸家協会会員）  
聖ヨゼフ＝Sr.伊従信子（ノートルダム・ドゥ・ヴィ会、上智大学助教授）  
マリスタ会とその靈性＝ジョン・ウオルッシュ師（マリスタ会）  
ザビエルの信仰－神への信頼(3)＝小平卓保師（鹿児島純心女子大学教授）

皆様のご購読をお待ちしております。

**年会費** 3000円（送料共）  
（上野毛教会、在俗者会集会で受取り希望の方は、2100円）

購読御希望の方は、下記①②いずれかの方法でお申込み下さい。

### 記

- ① Tel・FAX(03-5706-8356)で、カルメル誌事務局（竹田）に。
- ② 郵便振替で、00190-4-195457 跣足カルメル修道会の口座に住所、氏名、電話番号、新規購読と明記の上、ご送金下さい。

カルメル誌事務局長 新井延和 神父

上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線 : 「上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線 : 「六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス : 六地藏の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共 : 0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って明礮橋を右折

男子跣足カルメル修道会

## お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

- 
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5

☎045-941-3566

---

### あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一〇一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道

（一）本會之宗旨  
（二）本會之組織  
（三）本會之業務  
（四）本會之經費  
（五）本會之附屬  
（六）本會之其他  
（七）本會之總則

本會之宗旨，在於救濟貧苦，扶助弱小，以謀社會之進步，及國民生活之幸福。本會之組織，由會員大會，理事會，及執行委員會，分設之。本會之業務，包括救濟貧苦，扶助弱小，及社會福利等。本會之經費，由會員捐助，及社會捐助，分設之。本會之附屬，包括救濟院，及社會福利中心等。本會之其他，包括救濟院，及社會福利中心等。本會之總則，包括救濟院，及社會福利中心等。

中華民國三十一年一月一日

本會之宗旨，在於救濟貧苦，扶助弱小，以謀社會之進步，及國民生活之幸福。本會之組織，由會員大會，理事會，及執行委員會，分設之。本會之業務，包括救濟貧苦，扶助弱小，及社會福利等。本會之經費，由會員捐助，及社會捐助，分設之。本會之附屬，包括救濟院，及社會福利中心等。本會之其他，包括救濟院，及社會福利中心等。本會之總則，包括救濟院，及社會福利中心等。